

五月人形の飾り方

「僕の五月人形」

お父さんの五月人形。

お兄さんの五月人形。

そして、何より大事な僕の五月人形。

五月人形はそれぞれのお守りだから、

昔から一人にひと飾りでお祝いしています。





平飾り

- ① 兜(かぶと)
- ② 屏風(びょうぶ)
- ③ 飾り台(かざりだい)
- ④ 袱紗(ふくさ)
- ⑤ 櫃(ひつ)
- ⑥ 太刀(たち)
- ⑦ 弓(ゆみ)
- ⑧ 毛せん(もうせん)

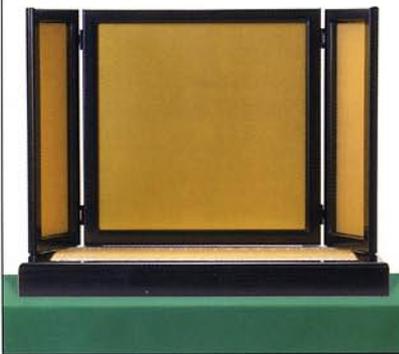


高床台飾り

- ① 鎧(よろい)
- ② 屏風(びょうぶ)
- ③ 飾り台(かざりだい)
- ④ 櫃(ひつ)
- ⑤ 太刀(たち)
- ⑥ 弓(ゆみ)



飾り方●その1

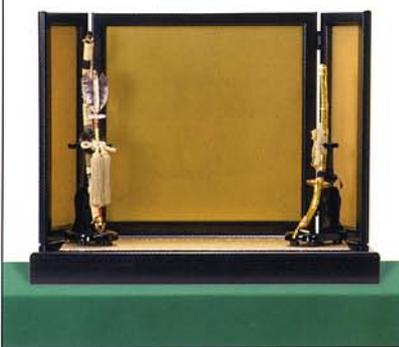


梱包をとき、箱から飾り台③と屏風②を取り出し、左の写真のように飾ります。
 ⚠️ 毛せん⑧がある場合は、まず毛せんを敷きます。



⚠️ 屏風を飾り台に乗せない飾り方もあります。

飾り方●その2



お道具類⑥、⑦を左の写真のように飾ります。
 ⚠️ 各々のお道具の形状は写真と異なる場合もございます。
 ⚠️ 刀は柄の部分を下向きに飾り、付属のひも等で刀置台の上部に結わえます。

飾り方●その3

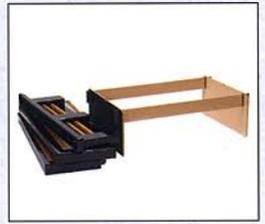


櫃⑤の上に兜①、④を左の写真のように飾ります。(兜の詳しい組み立て方は3Pの「兜の飾り方」をご参照ください) 後は作札を置き全体のバランスを整えれば完成です。

飾り方●その1



梱包をとき、箱から飾り台③と屏風②を取り出し、左の写真のように飾ります。
 ⚠️ 飾り台の組み立ては同梱の説明書に従って組み立ててください。



飾り方●その2



お道具類⑤、⑥を左の写真のように飾ります。
 ⚠️ 各々のお道具の形状は写真と異なる場合もございます。
 ⚠️ 刀は柄の部分を下向きに飾り、付属のひも等で刀置台の上部に結わえます。

飾り方●その3



櫃④の上に鎧①を左の写真のように飾ります。(鎧の詳しい組み立て方は4Pの「鎧の飾り方」をご参照ください) 後は作札を置き全体のバランスを整えれば完成です。

五月人形を飾る場所は変色・変形等の原因となりますので、日当たりの良いところは避けましょう。また、飾る際には、箱から兜・鎧やお道具類を取り出す順に写真を撮っておくと後の片づけが大変楽になります。

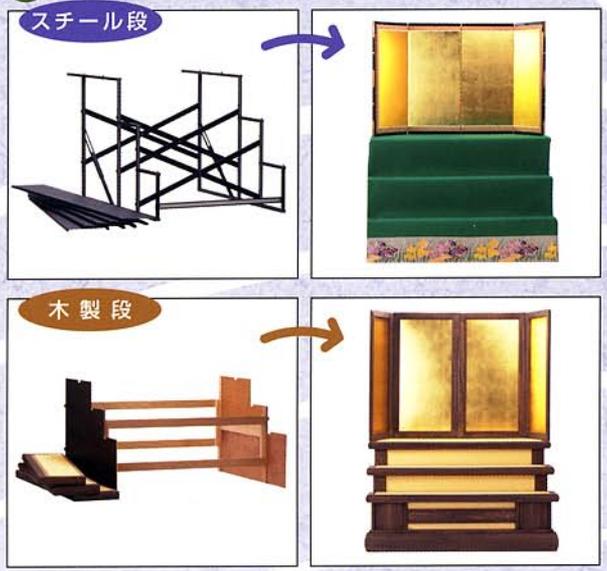


三段飾り

- 三段目**
- ① 鎧(よろい)
 - ② 屏風(びょうぶ)
 - ③ 櫃(ひつ)
 - ④ 太刀(たち)
 - ⑤ 弓(ゆみ)
 - ⑥ 篝火(かがりび)
- 二段目**
- ⑦ 軍扇(くんせん)
 - ⑧ 陣笠(じんがさ)
 - ⑨ 太鼓(たいこ)
- 一段目**
- ⑩ 柏餅(かしわもち)
 - ⑪ 八足台(はっすくだい)
※または三方台
 - ⑫ 粽(ちまき)
 - ⑬ 鯉のぼり(こいのぼり)
 - ⑭ 吹流し(ふきながし)
 - ⑮ 飾り台(かざりだい)



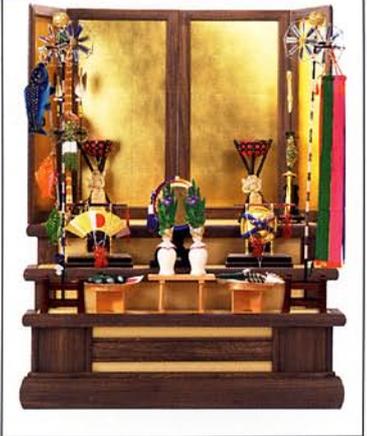
飾り方●その1



梱包をとき、箱から飾り台⑮と屏風②を取り出し、上の写真のように飾ります。

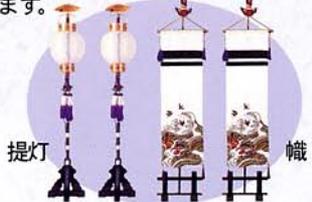
- 👉 飾り台の組み立ては同梱の説明書に従って組み立ててください。
- 👉 毛せん飾り(スチール段)の場合は毛せんを下から上へタルミを取りながらピンで止めていきます。

飾り方●その2



お道具類を左の写真のように上から順に飾ります飾ります。
(④～⑥、⑦～⑨、⑩～⑭)

- 👉 各々のお道具の形状は写真と異なる場合もございます。
- 👉 刀は柄の部分を下向きに飾り、付属のひも等で刀置台の上部に結わえつけます。
- 👉 提灯や幟を飾るタイプもあります。



飾り方●その3



櫃③の上に鎧①を左の写真のように飾ります。(鎧の詳しい組み立て方は4Pの「鎧の飾り方」をご参照ください)
後は作札を置き全体のバランスを整えれば完成です。

五月人形豆知識 ①

しょうぶ 菖蒲 菖蒲は、強い解毒作用があり胃薬として、また神経の緊張をほぐし血行をよくし、打ち身にも効く薬草として古くから珍重されてきました。特に中国では、薬効あらたかな不思議な薬草として用いられ、端午の節句には、菖蒲酒が飲まれていました。中国では、端午の節句には「菖蒲湯」ではなく「蘭の湯」に浸かっていたそうで、菖蒲はお酒として飲まれていたそうです。また菖蒲は「軒しょうぶ」と言って、ヨモギと対して軒にさし、魔よけとして使われていました。屋根の上におくことにより邪気や疫病を祓うと考えられていたのです。又、お風呂にいれることで体を清め、疲れを除こうとしたのです。菖蒲は、「勝負」「尚武/武事による徳を尊ぶ」と通じると考えられ、丁度端午の節句の時に咲くことから「世の中で負けない様に、逞しく育て」という祈りをこめて飾られてきました。



かしわもち 柏餅 柏餅に使われる葉の柏の木は、新芽が出ない限り古い葉が落ちないそうで、このことから家が絶えない、後継者が絶えることがない縁起のいい木として考えられ、柏餅はすでに室町末期頃から、広く食べられていたそうです。でも今と違って中の餡は、小豆のこし餡ではなく味噌餡だったそうです。一説では、「かしわ」は食物を包んだり食器代わりに用いられていたことから、「炊葉(かしぎば)」の転じた言葉ではないかとも言われています。

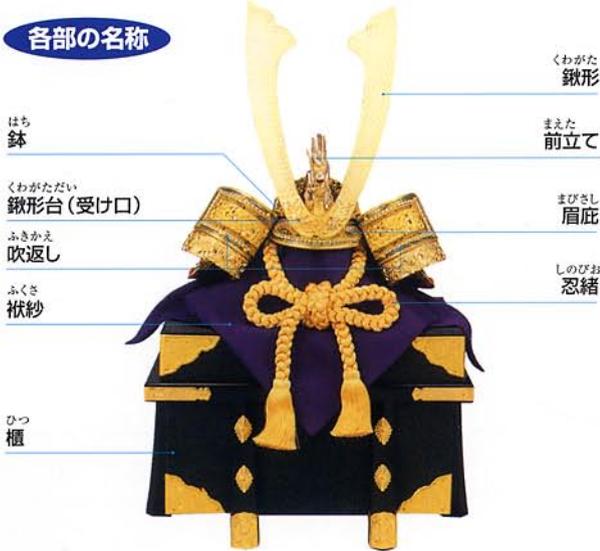
ちまき 粽 ちまきは、中国伝来の物で、端午の節句とともに日本に入ってきました。ちまきは、餅米やうるち米を草の葉で包んで蒸した物で、文字通り芽で包んだ物や笹の葉で巻いた笹ちまきなどがあります。笹には整腸作用があり、やはり薬効あらたかな薬草で包んだ葉をはがすと、餅米が緑に染まりとても綺麗で、健康にいい食べ物として考えられていました。ちまきには伝説があります。古代中国、有名な戦略家であった屈原(くつげん)という人が、策略によって都を追われます。屈原は失意のまま湖で水死するのですが、その死を悼んだ人々や屈原の姉が、弟を弔うため、竹の筒に米を入れ湖に投げ入れて、鮫竜(こうりょう)を祀ったことに由来するといわれています。





兜の飾り方

各部の名称



1 芯木を置く／左の写真のように芯木を櫃の中心よりやや手前に置きます。



2 袱紗を置く／左の写真のように袱紗を芯木に菱形にかけます。(絵柄や家紋のある袱紗は、絵柄を正面にします)



3 前立てを飾る／前立てを兜の前中央の受け口に差込ます。前立てには、龍頭、獅子頭などがあります。



前立ての無い兜もあります。

4 櫛形を飾る／櫛形を左右の受け口に差し込みます。剣先が外側を向くように差し込んでください。



5 兜を袱紗の上に飾る／左の写真のように袱紗の上に兜をのせます。前後左右の傾きを調節します。少し離れたところからもう一度チェックして、形を整えます。

五月人形豆知識 ②

八幡座

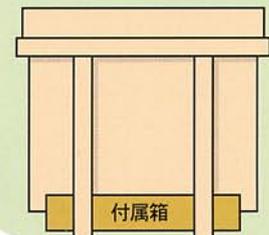
はちまんざ
兜飾りのてっぺんを見てください。円い穴がありますね。これは天辺(てへん)といって、兜をかぶった時に頭が蒸れないようにわざとあけてあるのです。いわば、兜の換気口と言

うわけです。その穴のまわりを縁どっている金銅の葵葉形の座と菊座玉縁を施してある金具のことを「八幡座(はちまんざ)」と言います。八幡座は神の住む神聖な場所と言われ、天辺の穴に指を入れることは固く禁じられていたそうです。



鎧の付属品について

ダンボール箱の底に付属品を入れる付属箱が収納されています。櫃を取り出した後よく確かめてください。付属箱の付いていない収納タイプの商品もあります。

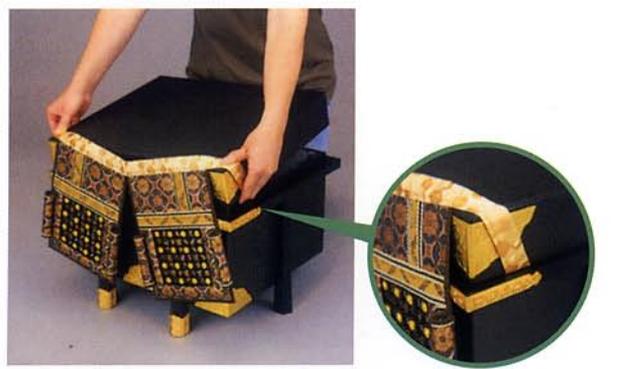




鎧の飾り方



1 佩楯を飾る／鎧櫃を置き、佩楯(はいたて)の中心を櫃の中心に合わせ、佩楯の帯の両端を下の写真のように櫃の蓋の間に挟み込み、しっかり蓋をしてください。



2 胴を飾る／左の写真のように芯木を通した胴を蓋の中央よりやや手前に置きます。

3 面頬を置く／下の写真のように芯木の上部の溝に面頬の紐を掛けます。兜の眉庇(帽子の底にあたる部分)と面頬上部が重なるくらいが美しく見えます。眉庇と面頬の間にすき間がないように注意してください。



4 面頬の調節／面頬の位置を直すには下の写真のように、片手で結び目を押さえ、もう一方の手で右のイラストのように矢印の方向に軽く引くと簡単に調節できます。



▼紐を短くする場合

紐を長くする場合▶



5 兜を飾る／(兜の飾り方は、兜の飾り方の写真③④を参照してください。) 兜を芯木の上に置き、前後左右の傾きを調節してください。
 ⚠ 忍緒はほどかないように注意してください。

6 脛当と毛沓を置く／脛当を毛沓に差込、櫃の前に揃えて並べます。最後にもう一度、少し離れたところから全体を見て形を整えてください。



⚠ 一般的な鎧と奉納型の鎧とは仕様が違います。



平台飾り



高床台飾り



段飾り



五月人形にはいろいろな種類・飾り方がありますがあります。ここでは代表的な飾り方をいくつかご紹介いたします。兜・鎧はセットによって様々です。またお道具やその他付属品、また飾り方は掲載の写真と異なる場合がありますのでご了承ください。



収納飾り



いろいろあります。五月飾りの御道具



じんむてんのう
神武天皇



しやうき
鍾馗



張り子の虎

馬



たししのとう
大小刀



提灯

篝火



鯉のぼり

吹流し



両幟



天気がよくて、カラッと晴れた日にしましましょう。

五月人形のしまいかた(例)

兜のしまい方



1 付属品を包む
 鍬形は2枚が直接触れないように、柔らかい薄紙等で包みます。前立ても同様に薄紙等に包んで、箱にしまします。

📌 前立てが無い兜もあります。



2 金属部品を包む
 吹き返し、眉底を柔らかい薄紙等で包みます。金属面は直接手を触れないように注意してください。



3 兜をしまう
 保護のため、櫃に布または紙を敷き、兜を上写真のようにしまします。



4 保護布(紙)で包む
 保護用の布または紙を四方から包み蓋をします。上部および空間には軽く丸めたパッキンを入れるとよいでしょう。

鎧のしまい方



1 付属品を包む
 鍬形、龍頭などの金属は柔らかい薄紙等で包み、毛沓などは箱に入れ、付属箱にしまします。付属箱は段ボールの箱の底にしまします。

📌 付属箱がない場合もあります。



2 兜、佩楯を包む
 兜は柔らかい薄紙等に包み、佩楯は薄紙またはビニール袋に包みます。



3 胴をしまう
 保護のため櫃に布または紙を敷き、金属部分は柔らかい薄紙等で包み、芯木を付けたまま胴を上写真のようにしまします。

📌 芯木を外してしまうタイプもあります。



4 兜をしまう
 兜を右側の空いた箇所に入れます。



5 脛当てをしまう
 兜の左側の空いた箇所に脛当てをしまします。

📌 付属箱に収納するタイプのもは付属箱にしまします。



6 佩楯をしまう
 最後に佩楯を上置きします。

📌 付属箱に入る場合もあります。



7 保護布(紙)で包む
 保護用の布または紙を四方から包み蓋をします。上部および空間には紙を軽く丸めたパッキンを入れるとよいでしょう。



8 ダンボール箱に入れる。
 底に付属箱が入っているのを確認して、櫃をしまい蓋をして完了です。

📌 付属箱がない場合もあります。

しまい方 ワンポイントアドバイス

◆ しまう前してほしいこと

しまう前に、羽根はたきなどでホコリを丁寧に払い落としてください。また、飾り金具や鍬形など、金属部分に指紋がついている場合は、乾いた柔らかい布で、丁寧に拭き取ってください。櫃の汚れも同様です。

📌 上の説明のカット写真は撮影用のために手袋を外していますが、しまう時も飾る時と同様に手袋をするようにしましましょう。

⚠️ 安全に関するご注意

保護者の方へ●必ずお読みください。

- 小さなお道具ありますので、お子さまが、なめたり、誤って飲み込まないようにご注意ください。窒息などの危険があります。
 - お子さまによる製品の取り扱いに際しては事故・破損等、十分にご注意ください。
- ※ 観賞用以外には使用しないでください。